

地域コミュニティラボ

—地域の情報を発信する展示スペース—

島根大学企画部図書情報課情報サービスグループ 昌子喜信
島根大学地域未来戦略センター 高須佳奈
島根大学地域未来戦略センター 中野洋平

1. はじめに

2017（平成29）年1月、島根大学附属図書館本館に地域コミュニティラボが開設された。地域コミュニティラボは、本館内の展示スペースを活用して、地域の多様なコミュニティの活動成果や活動状況を発信し、紹介するスペースである。本稿では地域コミュニティラボの概要とこれまでの展示活動を紹介する。

2. 地域コミュニティラボとは

2.1 設置の経緯

地域コミュニティラボは、杉江実郎附属図書館長の構想が具体化されたもので、「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」（略称「オールしまねCOC+事業」¹⁾、以下略称で表記する。）を構成する「しまねクリエイティブラボネットワーク事業」の一環として実現したものである。以下に設置の経緯を記す。

2012（平成24）年度に実施された本館の改修工事によって、1階ロビーの一角に展示室が設置され、島根大学史に関する常設展示を行うとともに、本学図書館が所蔵するコレクションを紹介する展示を行ってきたところである。2016（平成28）年には、展示室のより一層の活用を図るために、「島根大学附属図書館展示室運用要項」を制定して、学内外の機関との共催による企画展を連続して開催した²⁾。

これらの展示では、本学図書館や連携機関が所蔵する古典籍や古文書、古地図などを中心とするコレクション資料を紹介する展示が中心だった。一方で地域に目を転ずると企業や行政機関、NPO法人など様々な団体が多彩な

活動を行っている。これらの団体の活動状況や活動成果に、学生や教職員が大学内において身近に触れることができる場を提供することは意義のあることであり、杉江館長によって図書館の展示室を活用することが構想されたのである。

本学は、2015（平成27）年10月に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（略称「COC+事業」）³⁾の採択を受け、本学が主幹校となって、鳥根県立大学・鳥根県立大学短期大学部・松江工業高等専門学校および鳥根県とともに「オールしまねCOC+事業」に取り組んでいる。この事業では、地域における人材育成を核として、5つのプロジェクトが展開されている⁴⁾。そのプロジェクトの一つである「しまねクリエイティブラボネットワーク事業」（以下「クリエイティブラボ」という。）は、“イノベーションを起こす創造力を育む、多様な人やアイデア・情報が集まる「インキュベーション（孵化）空間」としてのオープンラボ”⁵⁾であり、地域のステークホルダーによる利活用が想定されている。杉江館長の構想による地域の諸団体による展示活動は「クリエイティブラボ」の目的に適ったものであることから、「オールしまねCOC+事業」を推進する地域未来戦略センターと協議を行い、「地域コミュニティラボ」の設置が決まった。

開設記念展示として、鳥根県銑鉄鋳物工業組合による展示を行い、2017（平成29）年1月31日には、ラボ開設の記者発表を行った。なお、現在「クリエイティブラボ」としては「地域コミュニティラボ」の他に、本学産学連携センターに「技術コミュニティラボ」が設置され、さらに「教育コミュニティラボ」（仮称）の設置が計画されている⁶⁾。

2.2 地域コミュニティラボの目的

地域では地元企業や行政機関、NPO法人などの様々なコミュニティが多彩な活動を行っている。これらのコミュニティの活動や成果に、学生や教職員、本学を訪れた市民が大学内において身近に触れることができるスペースが「地域コミュニティラボ」である。ラボの展示をとおして、本学の学生・教職員や市民がこれまで以上に地域に目を向けて、地元の企業や行政機関、NPO法人などの活動に関心を持ち、これら地域コミュニティをより知ってもらうことを目的としている。そして、本学の地域志向教育や学生の鳥根県

内への就職、教員とコミュニティとの共同研究・共同事業の推進を図ることを目的とする。

なお、本学では、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（略称「COC事業」）にも採択され⁷⁾、2013（平成25）年から「課題解決型教育（PBL）による地域協創型人材養成」をテーマにして、全学的な地域志向教育を進めているところである。このCOC事業の一環として、「しまね地域資料リポジトリGO-GURa」（以下「GO-GURa」という。）を2016（平成28）年11月に公開し、運用している⁸⁾⁹⁾。GO-GURaは、県内の行政機関や教育・研究機関、NPO法人などが発行している報告書や広報誌などの各種の資料を電子的に蓄積し、インターネット上で公開するもので、Web上の「郷土資料室」の構築を目指している。GO-GURaがバーチャル空間において地域コミュニティの情報のアーカイブと活用を目指しているのに対して、地域コミュニティラボは実空間において地域コミュニティの情報の発信を目指しており、両者は車の両輪のような関係にあるとすることができる。

2.3 展示スペースの概要

「地域コミュニティラボ」として使用する本館の展示スペースは、展示室と館内4か所の壁面を利用した「展示ウォール」である。これらの展示スペースでは、「地域コミュニティラボ」として使用しない時は通常の展示を行う。それぞれの施設の概要は次のとおりである。

2.3.1 展示室

展示室は、正面玄関を入れて左側にある。展示室前の棚の配置を変えることで、入館ゲートを入らずに直接展示室に入る動線を作ることも、入館ゲートを入れてから展示室に入る動線を作ることもできる。

表1 展示室の諸元

面積	51㎡	
設備	展示ケース（施錠可）	
	平型（大）（W1800×D450×H930）	2台
	平型（中）（W1800×D740×H800）	1台
	平型（小）（W1500×D740×H800）	2台
	縦型（W1800×D450×H930）	8台
	自立パネル	
	縦・横いずれでも可（貼付け面1800×1200）	脚付10台
	壁面ピクチャーレール（ワイヤーフック付き）	

2.3.2 展示ウォール

展示ウォールは、壁面を利用した展示用の“壁”である。パネルや絵画の額などの平面的な展示物の展示に適しているが、各種のアタッチメントを取り付けることによって、図書を展示することも可能である。次の表のように館内4か所に設置されている。

表2 展示ウォールの諸元

展示ウォール	1（1階研究ゾーン）	高さ2.3m × 幅6.3m
	2（1階研究ゾーン）	高さ2.3m × 幅3.1m
	3（2階研究ゾーン）	高さ2.3m × 幅6.3m
	4（2階交流ゾーン）	高さ2.3m × 幅4.4m
設備	展示ウォール専用展示用アタッチメント各種 壁面ピクチャーレール	

2.3.3 展示用備品

前述のような展示スペース備え付けの展示用備品の他に次の備品を用意している。

表3 展示用備品一覧

展示解説用パネル（アルミパネル）	A1、A2、B1、B2の各サイズ
サイン用スタンド	

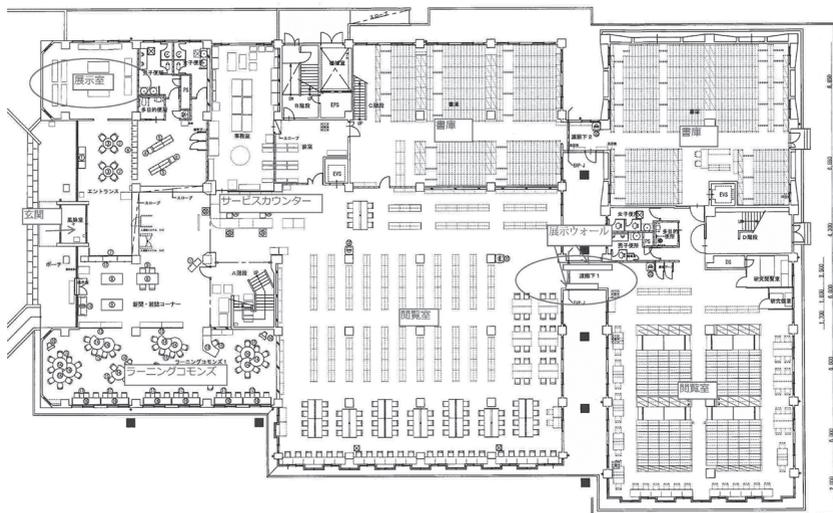


図1 1階平面図

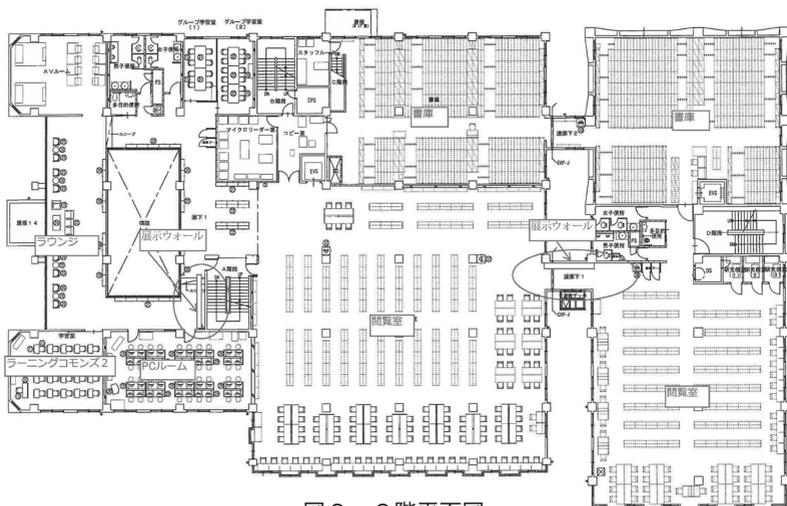


図2 2階平面図

3. 展示

3.1 展示の企画・運用

地域コミュニティラボの展示は、2017（平成29）年1月のラボ開設以来、同年12月現在まで4回開催した。2017（平成29）年度中にさらに2回開催予定である。

展示の企画及び運用は、地域未来戦略センターと附属図書館が連携しながら共同で行っている。展示の企画、出展の呼びかけ、出展者との連絡・調整、広報用ポスターの作成等は地域未来戦略センターが行い、展示室の準備、広報、展示期間中の運用は附属図書館が行っている。展示解説やキャプションの作成、展示品の展示及び撤収は出展者が行う。また、関連イベントとして、出展者によるギャラリートークやトークイベントも開催している。

これまで開催した展示の概要は3.2のとおりである。

3.2 これまでの展示

3.2.1 「鐵の造形—島根県銑鉄鋳物産業の技と匠」展（出展者：島根県銑鉄鋳物工業組合）

（1）展示期間 2017（平成29）年1月28日（土）～ 2月10日（金）

（2）関連イベント

・ギャラリートーク

日 時：2月3日（金）12：00～12：30

会 場：島根大学附属図書館（本館）1F 地域コミュニティラボ（展示室）

案内者：島根県銑鉄鋳物工業組合 理事長 重親守氏

（ヤンマーキャステクノ株式会社 常務取締役 松江事業部長）

・ラボ活用セミナー

日 時：2月3日（金）13：30～15：00

会 場：島根大学附属図書館（本館）3F 多目的室

（3）展示内容

銑鉄鋳物産業は、生産量・生産金額ともに全国第4位を誇る島根県の基幹産業であることは意外に知られていない。本展は、島根県銑鉄鋳物工業組合



図3 ギャラリートーク

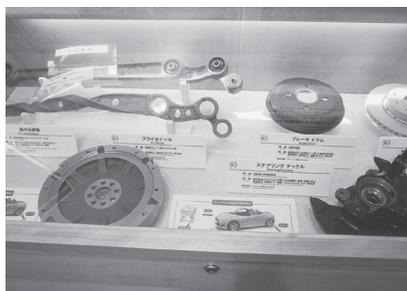


図4 鋳物製品

の加盟企業10社による製品や製造工程の説明パネルを中心に展示した。“鋳物”といえば南部鉄器のような伝統的な製品をイメージしがちだが、エンジンや機械の部品など身近なところで活用されており、現代の私たちの生活になくてはならない技術である。現在では3Dプリンタによって鋳型が製作されるなど、新たな進化を遂げている。展示によって、鳥根の鋳物産業の広がりに触れることができ、“たたら製鉄”だけではない、もう一つの「鉄の鳥根」の魅力を知ることができた。

(主な展示資料)

- ・パネル展示：たたらと鋳物の歴史
- ・鉄のふるさとしまねイメージコンテスト入賞作品（3Dプリンタを用いた鋳造作品）
- ・鳥根県銑鉄鋳物工業組合加盟企業 製品
- ・鋳物用3Dプリンタの出力品（砂型）

3.2.2 「ご縁の国しまね」展（出展者：鳥根県観光振興課）

(1) 展示期間 2017（平成29）年7月1日（土）～7月17日（月）

(2) 展示内容

4月から鳥根に住み始めた新入生を主なターゲットとして鳥根の良さを伝えようと企画したもので、鳥根県が展開する観光振興キャンペーン「ご縁の国しまね」と連動して、出雲・石見・隠岐のそれぞれの地域の特徴ある資料の展示を行った。展示では、「ご縁の国しまね」のプロモーション資料に加えて、出雲地方の「たたら製鉄関連資料」や能面、石見地方の「石見銀山関



図5 能面と「ご縁の国しまね」
イメージキャラクター



図6 石見銀山関連資料

連資料」、隠岐地方の「隠岐ユネスコジオパーク関連資料」の展示を行った。

(主な展示資料)

- ・「ご縁の国しまね」イメージキャラクター（EXILE等）等身大パネル・タペストリー
- ・「たたら侍」パネル
- ・EXILE等の3人が巡る島根旅パネル
- ・たたら製鉄関連資料（玉鋼・砂鉄など）
- ・能面／「出雲国風土記」関係資料
- ・石見銀山関連資料（世界遺産認定証〈レプリカ〉・丁銀〈レプリカ〉など）
- ・隠岐ユネスコジオパーク関連資料（ワニ化石〈レプリカ〉、岩石など）

3.2.3 「三江線へのまなざし」展（出展者：三江線沿線魅力化プロジェクト、ハーベスト出版〈株式会社谷口印刷〉、島根大学法文学部山陰研究センター）

(1) 展示期間 2017（平成29）年10月24日（火）～11月6日（月）

(2) 関連イベント

- ・ラーコモカフェ（展示解説とパネルディスカッション）

日 時：11月1日（水）12：00～13：00

会 場：島根大学附属図書館（本館） 1F ラーニングコモンズ

主 催：島根大学図書館コンシェルジュ

ゲスト：三江線沿線魅力化プロジェクト



図7 ラーコモカフェに先立っての
展示解説



図8 ラーコモカフェ

(3) 展示内容

島根県江津市と広島県三次市を結ぶローカル鉄道の三江線は、平成29年度末で廃線となることが決まり、改めてその価値や沿線地域を見直す取組が活発になってきた。本学の教員と学生がそれぞれ関係して出版された三江線についての2冊の書籍、『三江線BOOK』¹⁰⁾及び『三江線の過去・現在・未来』¹¹⁾をもとにパネル展示を行った。

また、図書館コンシェルジュ主催により、『三江線BOOK』を執筆した三江線沿線魅力化プロジェクトの学生4名をゲストスピーカーに迎えて、トークイベント「ラーコモカフェ」¹²⁾を開催した。ラーコモカフェでは、執筆した学生たちが、取材の時の苦労話や印象に残ったことなどを語り、利用者からは活発に質問が投げかけられた。

3.2.4 「木の匠—木匠展 in 島根大学」(出展者：木匠会)

(1) 展示期間：2017(平成29)年11月8日(水)～11月19日(日)

(2) 関連イベント

・ギャラリートーク

日 時：11月14日(火) 14:00～15:00

会 場：島根大学附属図書館(本館) 1F 地域コミュニティラボ(展示室)

案内者：正木潤氏(木匠会会長)、野白千晴氏(木匠会事務局長)

(3) 展示内容

中国山地の豊かな森林資源に恵まれた島根県では、古くから木工の技術が発達してきた。本展では、島根県の東部地域を中心に創作活動を行う作家グ



図9 ギャラリートーク



図10 展示風景

ループ「木匠会」¹³⁾と協働して、木工作品の展示を行った。指物・刳物・挽物・曲物・彫物といった様々な工芸品から、「木の匠」たちの精緻で奥深い木工芸の世界に触れることができた。

ギャラリートークでは、一つ一つの作品に使われている技法や作品に込められている作者の思いが語られ、また、参加者が実際に木工の技法を体験した。

3.3 評価

各展示会の来場者数は次の表のとおりである。初回の「鐵の造形」展の来場者数は、記帳簿に記録された来場者数をもとに推計した数値である。それ以後は、展示室入口に設置した簡易アクセスカウンターで取得したデータを集計したものである。平日の平均来場者数は、50人弱から70人超だった。

表4 来場者数

展示会名称	展示期間	日数 (日)	来場者 数(人)	1日平均来場者数 (人)		
				平日	休日	全期間
鐵の造形	1月28日(土) ～2月10日(金)	14	900	-	-	64.3
ご縁の国しまね	7月1日(土) ～7月17日(月)	17	980	74.2	29.7	54.4
三江線へのまなざし	10月24日(火) ～11月6日(月)	14	686	64.7	26.0	52.8
木の匠	11月8日(水) ～11月19日(日)	12	409	46.5	9.25	34.1

来場者に対してアンケートを実施した結果を以下に示す¹⁴⁾。回答者の64%が学生であり、教職員(20%)、市民(16%)と続く。実際の来場者数に占めるそれぞれの割合も同様の傾向を示していると考えられる。来場目的を見ると、図書館利用を兼ねて展示を見に来ている人が多いと考えられる。展示内容の満足度は、「大変良かった」「良かった」が85%を占めている。

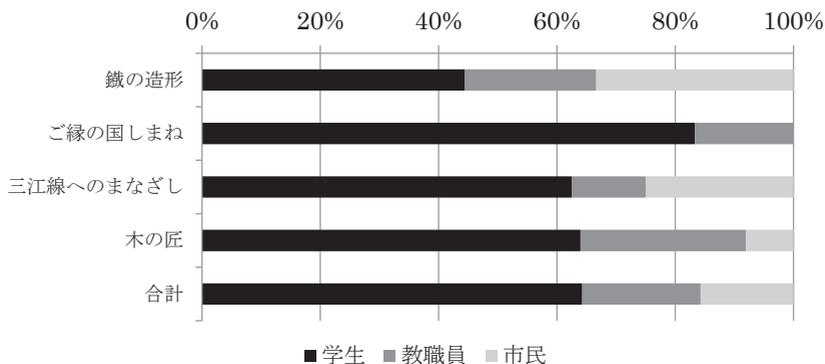


図11 回答者の区分

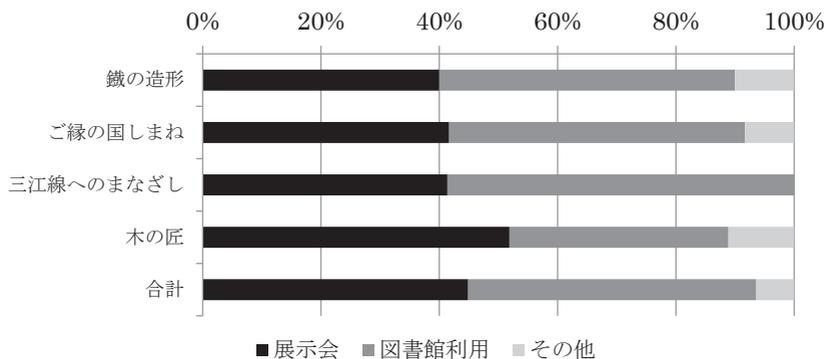


図12 来場目的

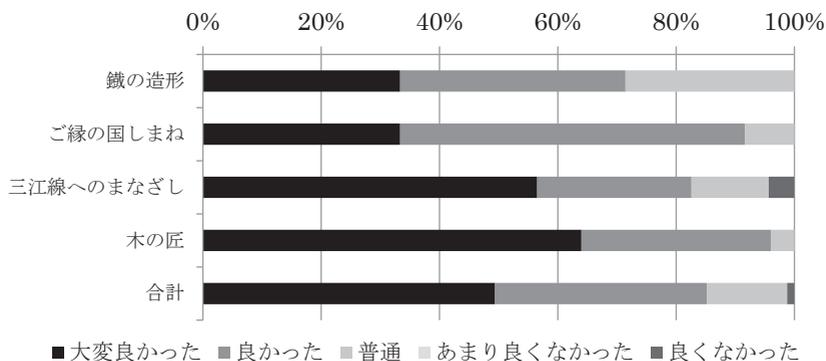


図13 展示内容の満足度

アンケートの自由記述の中から、「評価する意見」と「要望」を抜粋して示す。

評価する意見

「鐵の造形」展

- ・“鉄”をテーマに、企業の取り組みや仕事の内容がわかる非常におもしろい展示だった。
- ・鳥根で作られた製品がどこで活躍しているかをさらに詳しく知りたい。
- ・作業工程の様子をもっと知りたくなった。
- ・気軽に地域の産業、歴史に触れることができるのはよい。

「ご縁の国しまね」展

- ・最近、近くで資料を見る事がなかったので、良かった。図書館で気軽に見られるのがよかった。
- ・実際の史料を展示してあるところが良かった。
- ・近くでデジタルでなく実物の資料を見られて良かった。内容も良かった。石が好きなので、面白かった。

「三江線へのまなざし」展

- ・地域の課題と現実を伝える大変重要なテーマ、内容だった。
- ・三江線が廃止になるのは正直当然のことだろうと思っていたが、今まで

知らなかった価値を知ることができて本当に良かったと思う。

- ・三江線の魅力が伝わった。それと共にこれからのバス事業をどううまくまわすか。市民が安心快適に暮らせるように考えていかなければ。これはどの地域でも通じるところがありそうだった。

「木の匠」展

- ・島根にこのような技術を持った方々の会があることを初めて知った。また、機会があれば拝見したい。
- ・木の素材を生かした作品の中でも曲線の多い作品が印象に残った。作品を作られる過程も気になった。

要望

「ご縁の国しまね」展

- ・場所が少し分かりづらかったので、もう少し分かりやすいように宣伝してほしい。

「三江線へのまなざし」展

- ・公民館で展示されていたものと関連本の拡大コピーのみで残念。
- ・地域のかたのコメントが欲しかった...
- ・視覚的に見やすい展示ならなお良い。

「木の匠」展

- ・作品1つ1つにもう少し説明や作り手の思いなどが示されているとよかったです。
- ・アンケートを書けるスペースが欲しい。
- ・実際に触ることができるものもあるとなおよかった。
- ・もう少し長期の展示でもいいのかと思う。

アンケート結果からは、「ラボの展示をとおして、本学の学生・教職員や市民の方がこれまで以上に地域に目を向けて、出展した地域の諸団体の活動に関心を持ち、これら地域コミュニティをより知ってもらおう」という地域コ

コミュニティラボの目的を達成しているものと評価できる。要望については、今後の展示計画の中で改善を図りたい。

地域コミュニティラボの展示は、前述のとおり開設されてから1年の間に4回実施した。地域コミュニティラボ以外の通常の展示¹⁵⁾を含めるとこの期間内に8回開催している。長期休業中の閑散期（2月・3月・8月・9月）には展示を行わないため、閑散期の4か月を除くと月1回の頻度で展示を実施したことになる。展示の開催頻度としては、準備期間、事後のまとめの時間を考慮すると月1回程度が限度であろう。今後の地域コミュニティラボ展示の開催数は、地域コミュニティラボ以外の通常の展示企画の開催数にもよるが、年に4回程度実施するのが適当と思われる。

4. 課題と展望

地域コミュニティラボの設置の経緯からこの1年間の活動を概観した。最後に、ラボを継続して運用していくにあたっての今後の課題と展望をまとめたい。

課題の1点目は、出展者の確保である。現在までのところ、「オールしまねCOC+事業」に賛同する団体に出展を呼びかけて出展者を確保しているが、この方法に加えて今後は、公募による募集や、出展希望者からの申込みによる募集を検討する。公募による募集は、テーマを決めて出展者団体を公募し、出展内容の書類審査を経た後、出展者を決めるものである。公募による方法、申込みによる方法のいずれの方法による場合も、出展者を確保するためには地域コミュニティラボの認知度を高めていく必要があり、効果的な広報のあり方を今後検討する必要がある。

課題の2点目は、評価とフィードバックである。これまでの展示では、来館者数のカウント（簡易アクセスカウンター及び記帳簿への記入）とアンケートを実施し、その結果をもとに評価をして関係者間で共有するとともに、出展者へフィードバックを行ってきた。地域コミュニティラボの展示が観覧者にどのようなインパクトを与えているか、学生、教職員、一般の方それぞれの立場の人ごとにより詳細な調査ができないか、今後検討したい。

今後の展望として2点挙げる。1点目は、教育シーズとしてラボの展示を活用することの可能性である。本学の約7割の学生は他県出身者であり、入

学時に大学立地地域としての島根の魅力を紹介する展示を行うことで、地域の学びの入り口とすることができる。また、全学的に展開している地域に関する授業等と連動した展示を行うことで、授業の理解を深めることが可能となると考えられる。

2点目は、本学の研究シーズを地域へPRする場としてラボの展示を活用することが考えられる。オープンキャンパスや大学祭の時など、高校生や地域の人たちが集まる機会において、本学の教育・研究内容や、地域で話題となった産学連携事例や商品開発事例などをPRする場としての活用が考えられよう。

さらに、本学のミュージアムとも連携することで展示内容に奥行きと拡がりを作り、本学のML連携＋教育・研究と地域コミュニティの活動が双方向に影響しあって成果と活力を生み出していける場を目指していきたい。

注・参考文献

- 1) “オールしまねCOC+情報ポータルサイト”. (オンライン), <http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/>. (参照 2018-01-02).
- 2) 2016 (平成28) 年度には次の企画展を開催した。
 - ・ 2016.7.11～7.31 松江が生んだ美術史家・相見香雨「自筆調査録」展 (主催：桑原羊次郎・相見香雨研究会／島根大学附属図書館)
 - ・ 2016.8.30～9.13 旧制松江高校出身の異才編集者 花森安治と田所太郎 (主催：島根大学ミュージアム／同 附属図書館)
 - ・ 2016.11.9～11.30 江戸力：手銭家蔵書から見る出雲の文芸 (主催：出雲文化活用プロジェクト〈公益財団法人手銭記念館／島根大学附属図書館／同 法文学部山陰研究センター〉)
 - ・ 2016.12.10～2017.1.22 足立文庫を通じて見る戦前・戦中・戦後 (主催：島根大学法文学部山陰研究センター／同 附属図書館)
- 3) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室. “地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)”. 文部科学省. 2013-03. (オンライン), http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/index.htm. (参照 2018-01-02).
- 4) 前掲注4)
- 5) 島根大学. “しまねクリエイティブラボネットワーク”. オールしまねCOC+情報ポータルサイト. (オンライン), <http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project04/>. (参照 2018-01-02).

- 6) 「技術コミュニティーラボ」は、しまね大交流会等で生まれた「人的・技術的交流、コラボレーション」等の機会を活かし、大学・企業間の共同研究から製品や技術開発の促進を目的としたもの。「教育コミュニティーラボ」は、企業と連携した「ものづくり等の教育」を通して、創発力やアントレプレナーとしての資質育成等を目的としたものである。(佐藤利夫島根大学副学長〈地域連携・貢献担当〉の記者発表による)
- 7) 島根大学. “しまだいCOC”. しまだいCOC. (オンライン), <http://www.coc.shimane-u.ac.jp/>. (参照 2018-01-12) .
- 8) 島根大学. “しまね地域資料リポジトリGO-GURa”. しまね地域資料リポジトリGO-GURa. (オンライン), <http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/>. (参照 2018-01-12) .
- 9) 中野洋平. しまね地域資料リポジトリGO-GURa構築の取り組み. 図書館雑誌. 2017.6, 111 (6), p.376-377.
- 10) 三江線沿線魅力化プロジェクト編著. 三江線BOOK. ハーベスト出版, 2016.
- 11) 関耕平ほか著. 三江線の過去・現在・未来. 今井出版, 2017.
- 12) ラーコモカフェは、島根大学附属図書館(本館)で活動する図書館コンシェルジュが主催して不定期に開催するトークイベント。ラーニングcommonsを会場にして、毎回テーマを決めてゲストスピーカーと参加者が交流するもの。第1回目は服部学長をゲストに2016年1月に開催。
- 13) 県内で活躍する木工作家らが木工芸の研鑽のために1987(昭和62)年に組織したグループ。その技術と作品を紹介する「木匠展」を隔年で開催している。
- 14) アンケートの回答数は次のとおり。「鐵の造形」展(8名)、「ご縁の国しまね」展(12名)、「三江線へのまなざし」展(24名)、「木の匠」展(25名)
- 15) 2017年1月～12月の間に次の展示を開催した。
 - ・ 2016.12.10～2017.1.22 足立文庫を通じて見る戦前・戦中・戦後(主催:島根大学法文学部山陰研究センター/同 附属図書館)
 - ・ 2017.6.3～6.25 江戸力: 献立いろいろ(主催:出雲文化活用プロジェクト〈公益財団法人手銭記念館/島根大学法文学部山陰研究センター/同 附属図書館〉)
 - ・ 2017.10.10～10.22 島根大学附属図書館教科書コレクションにみる教科書のあゆみ(主催:島根大学附属図書館)
 - ・ 2017.11.27～12.22 戦争と平和を考える: 記録された戦争体験(主催:島根大学附属図書館)